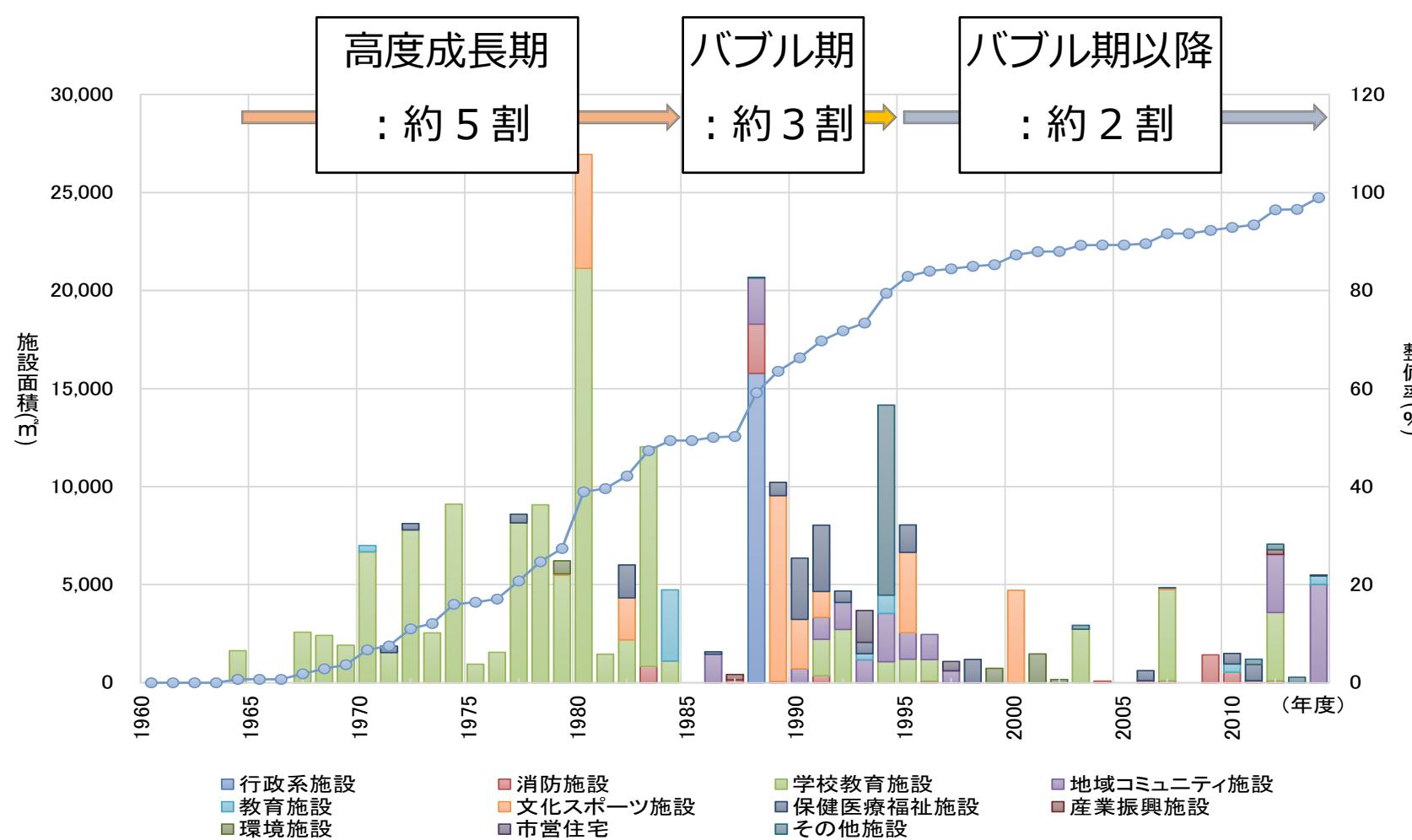


前回までのふり返り

「海老名市公共施設再編（適正化）計画」の概要説明

建設年度別・施設面積の分布（市保有分）



問題①：公共施設の老朽化

30年以上経過した建物が
全体の約8割



近い将来、老朽化に伴う大
規模改修や更新（建替）が必
要な建物が増大

問題②：多額な維持費

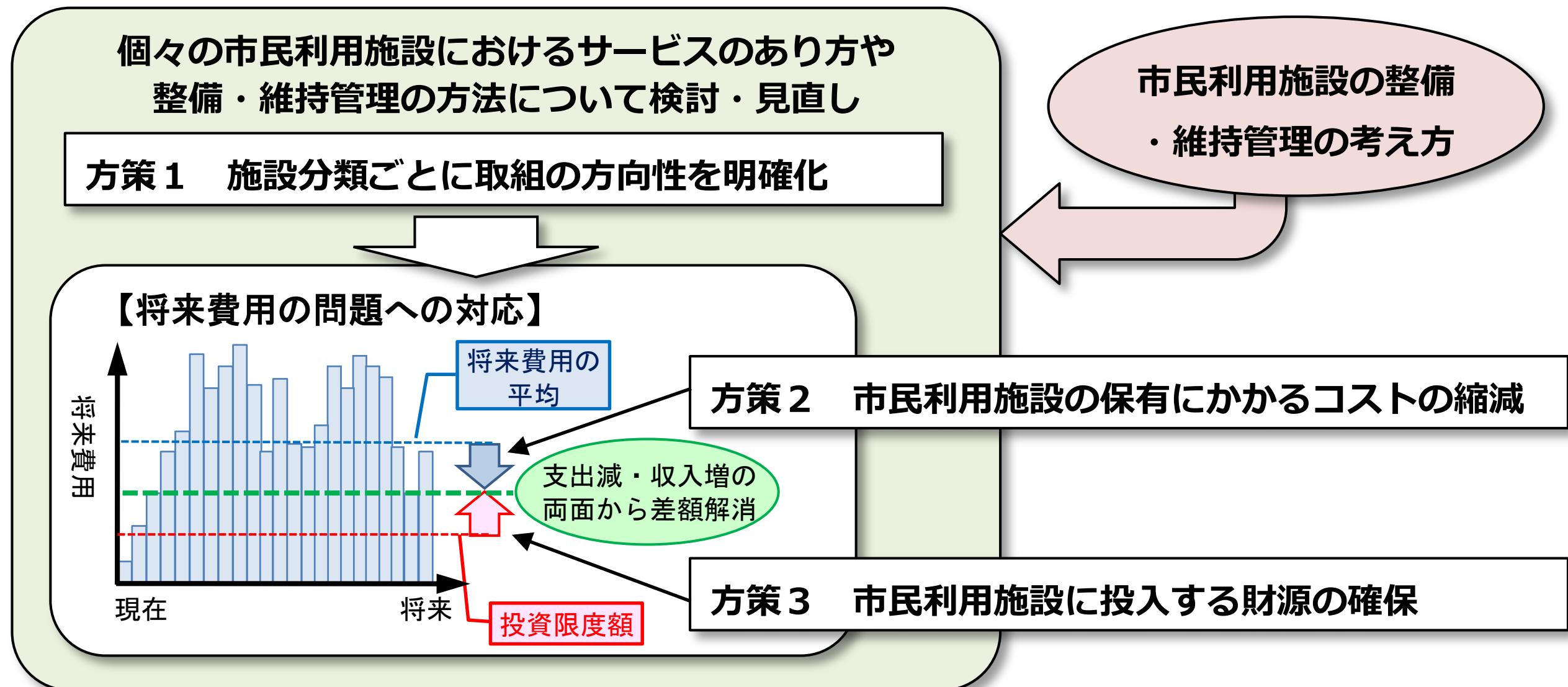
全て保有し続けるためには
膨大な将来費用が必要



今そのまま保有するのは困難

「海老名市公共施設再編（適正化）計画」の概要説明

「基本的な対応方策」の関連性イメージ

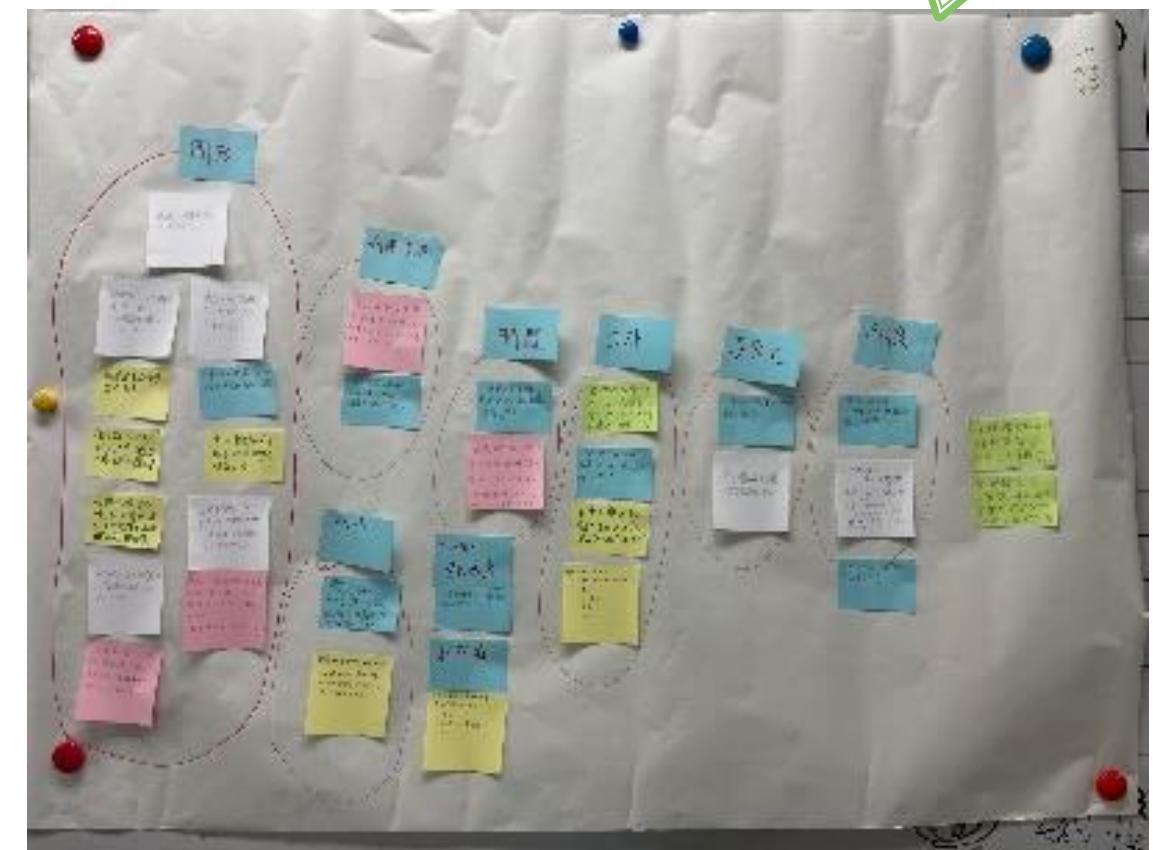


市民アンケート案の作成

統廃合ありきだけでなく、大きなビジョンや夢をもって計画をたててほしい。世代間の公平性や将来の子育て環境について問いたい。

既存施設の複合化案を
問うてみては？

その施設を利用するときの交通手段。公共交通を作ってほしい。



参考事例① 武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）

- 図書館、カフェ、生涯学習支援（スタディコーナー、ワーキングデスク等）、市民活動支援（会議室等）、青少年活動支援（スタジオ等）などが一体となった複合施設

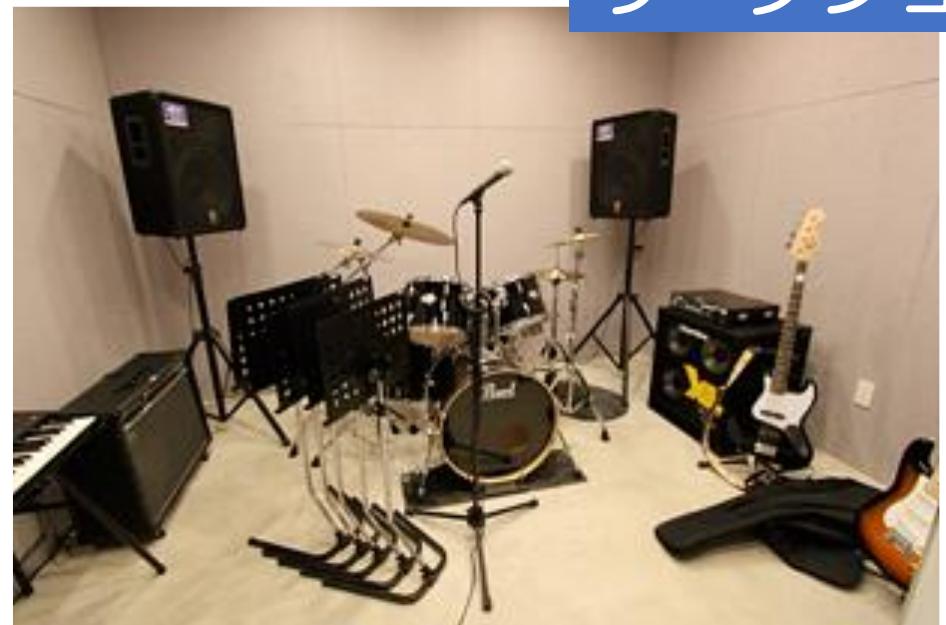


参考事例① 武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）

第2回
ワークショップ



メインライブラリー



サウンドスタジオ

地下2階は、ティーンズスタジオで、
青少年の居場所（ダンス・バンドの練習など）



ワーキングデスク

3階は、ワークラウンジ（市民活動フロア）
となっている



カフェ

1階入り口に、総合受付・ギャラリー・
カフェなどがある

まる

まる

参考事例⑤都城市中心市街地施設「MALL MALL」（宮崎県都城市）

- 経営破たんした商業施設を図書館等の複合施設に転用。
- 図書館、子育て活動支援センター、未来創造ステーション・まちなか交流センター・保健センター等の複合施設となっている。



〈階数〉

RC造(免振)、地上5階、地下1階

〈延床面積〉

約10,900m²、図書館8,046m²(蔵書30万冊)

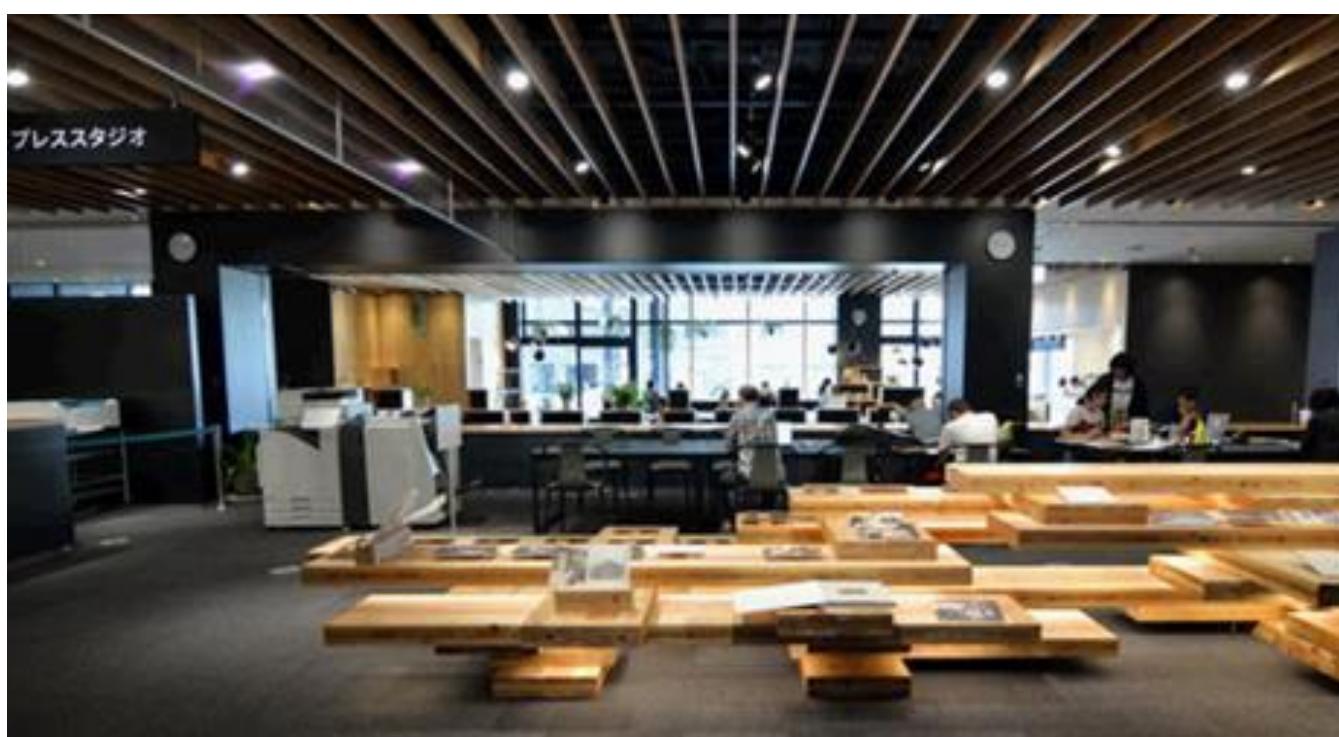
参考事例⑤都城市中心市街地施設「MALL MALL」



屋根付きのイベント広場「まちなか広場」



2階に10代しか使えない居場所を提供
「ティーンズスタジオ」：
宿題を教え合ったり、調べ物をしたりするスペース



市民が地域の情報などを発信するプレススタジオ

参考事例⑥ 瀬戸市立にじの丘学園（愛知県瀬戸市）

第2回

ワークショップ

- 中心市街地の少子化問題を解決するため、五つの小学校と二つの中学校を一つにする全国でも珍しい大規模な統合で、2020年4月に開校
- 人口約13万人の瀬戸市には、統合前は小学校は20校、中学校は8校あった。廃校舎のうち一つは私立小学校に。残りは福祉や防災の拠点にするため、地域で活用法の検討が進む

■ 学校規模（2021年度）

小学校：1学年3～4学級
計689人

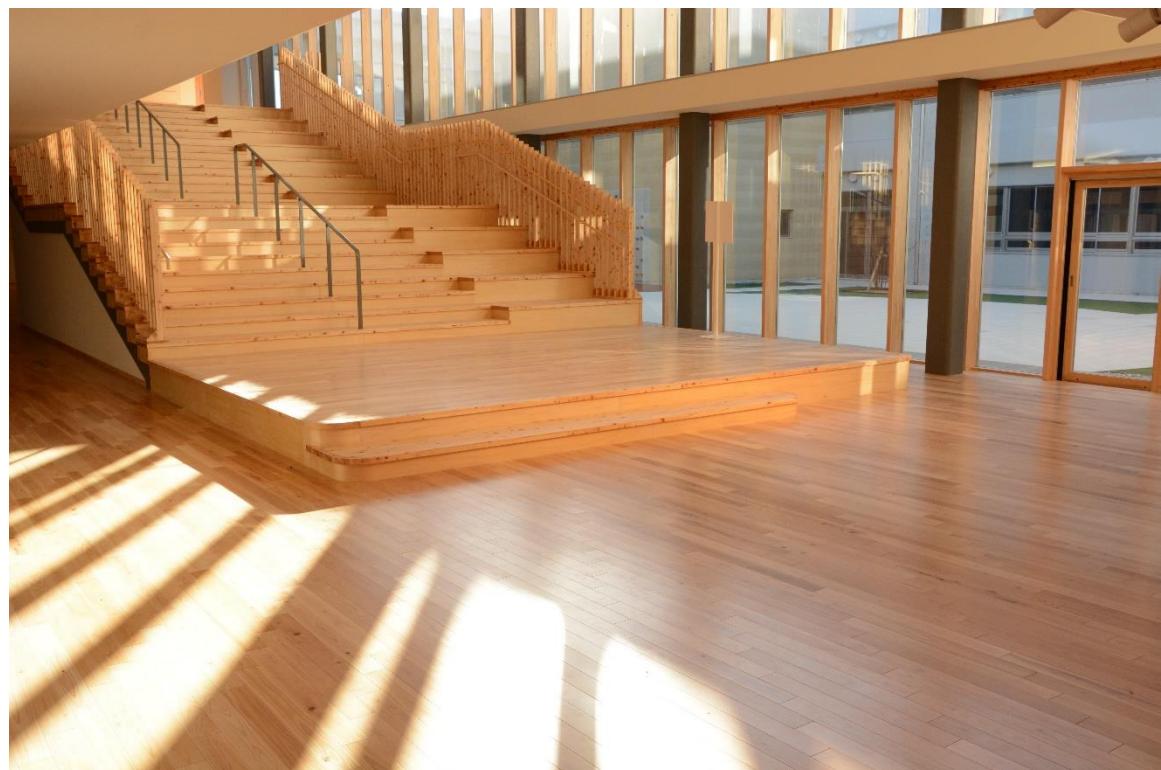
中学校：1学年2～4学級
計245人



参考事例⑥ 濑戸市立にじの丘学園（愛知県瀬戸市）

第2回

ワークショップ



さまざまな児童生徒が交流する階段



登下校に路線バスを使う



おんぶやだっこで触れ合っている児童生徒



理科ボランティア（実験をサポート）

第2回グループ発表の概要

テーマ「公共施設ごとにどうあるべきか考えよう！」

第2回

ワークショップ

■グループワークの成果



課題
大事なこと
将来に向けて

■主な発表内容

小・中学校

- ・小中学校は小中連携、地域との連携が大事だと思う。
- ・一番大事なのは、子どもたちがトキメキをもって楽しく学べること。
- ・地域ごとに課題も変わってくる。駅近くは教室が足りないし、南部は教室が余っている。

コミュニティセンター・文化センター

- ・コミュニティセンターは、地域のコミュニティをつくっていく場として、存在し続けてほしい。
- ・班の中でも施設の廃止と存続の両方の意見があった。
- ・使っていない人が多い。

その他

- ・徒歩圏に避難所機能を有する施設を残す。
- ・施設を統合すると、元の施設から遠くなる人が出てくるので、公共交通や駐車場の確保が必要。

小・中学校

セキュリティの確保

通学路の安全性

小中学校統合も考えては？

朝登校したくなるようなトキメキのある学校

生徒数が多い学校と少ない学校

人口の増減、地域によってちがう

学童とのつながり。市内でも地域差あり。塾などが受け入れ。

コミュニティセンター・文化センター

卒業生の思い出は残す

老朽化

同じ団体がいつも使っている

交通が不便なイメージ

コミセン不要では

スマホで予約したい

複合化することのセキュリティ

Wi-Fiがないことで活用できない

将来に向けて無料での対応をはかるのか？

有馬図書館とコミセンの複合化で子供が行きやすい環境となった。

その他

避難所の電源確保

公共交通機関の確保

市内の中学校単位に複合拠点を整備すればコストと利便のメリットありでは

徒歩圏に必ず避難所機能を有する施設を残す

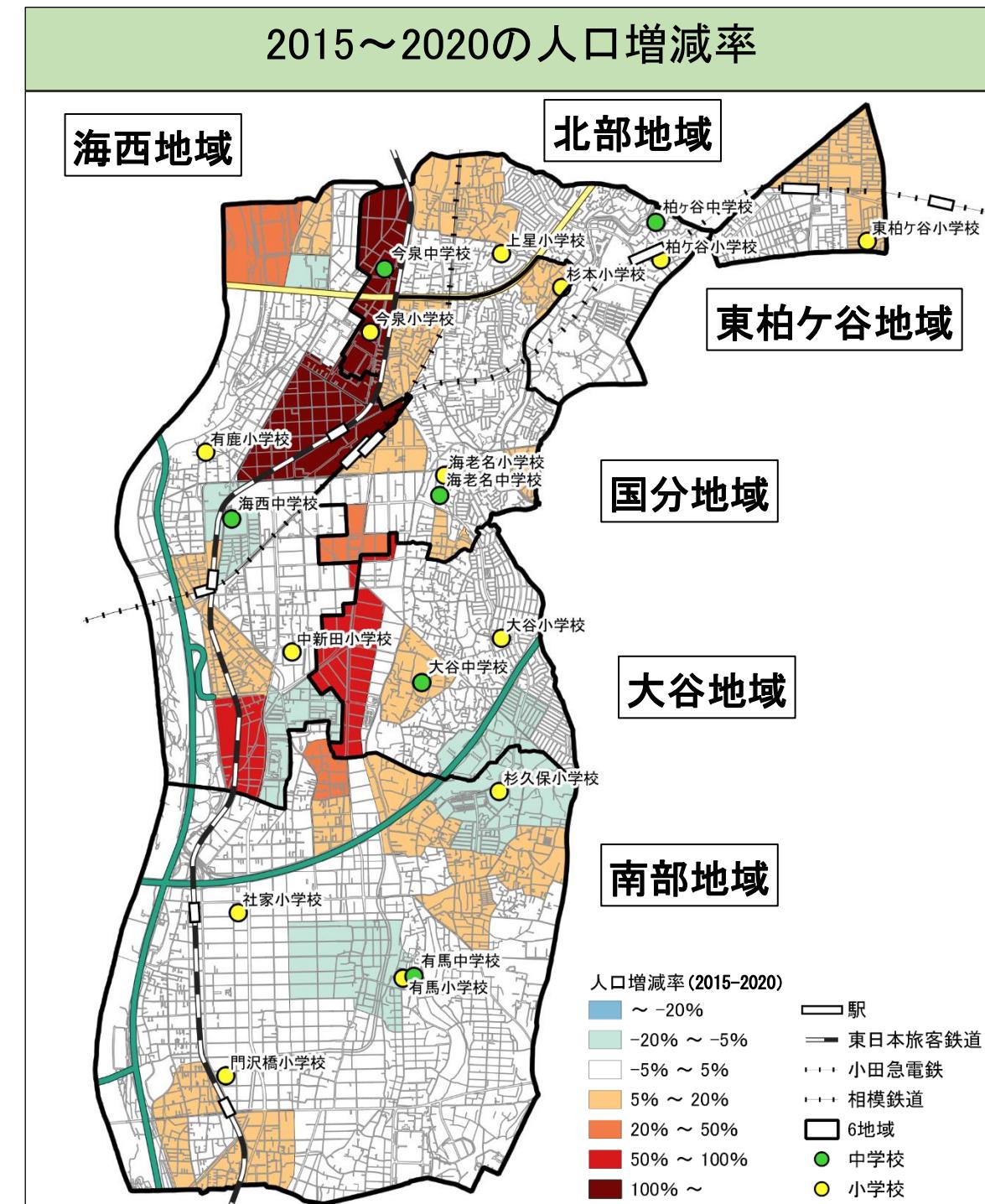
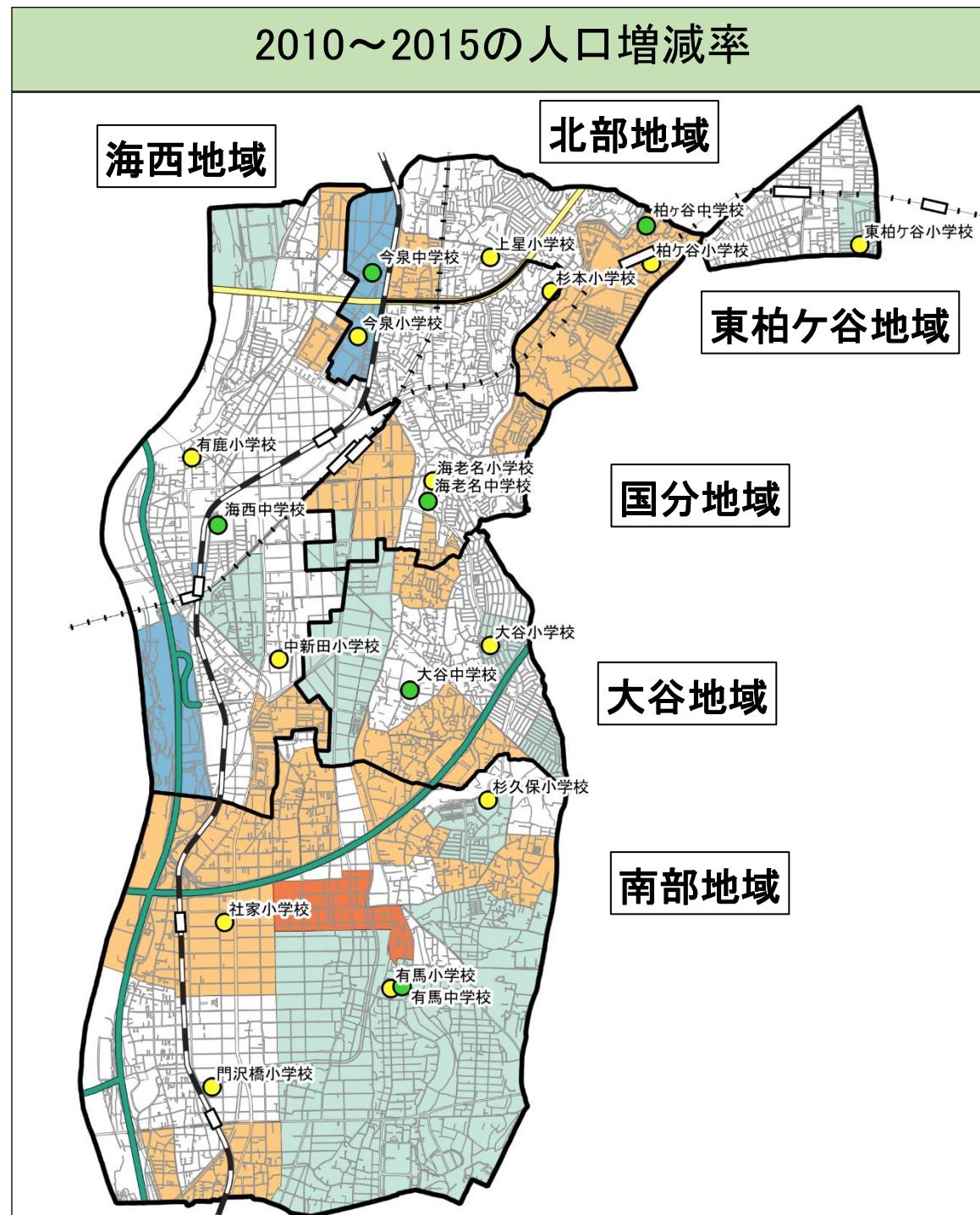
図書館+飲食
カフェ的スペースで利用しやすい◎

発展する海老名より自然が残されている海老名でありたい

地域別人口変化

第3回ワークショップ

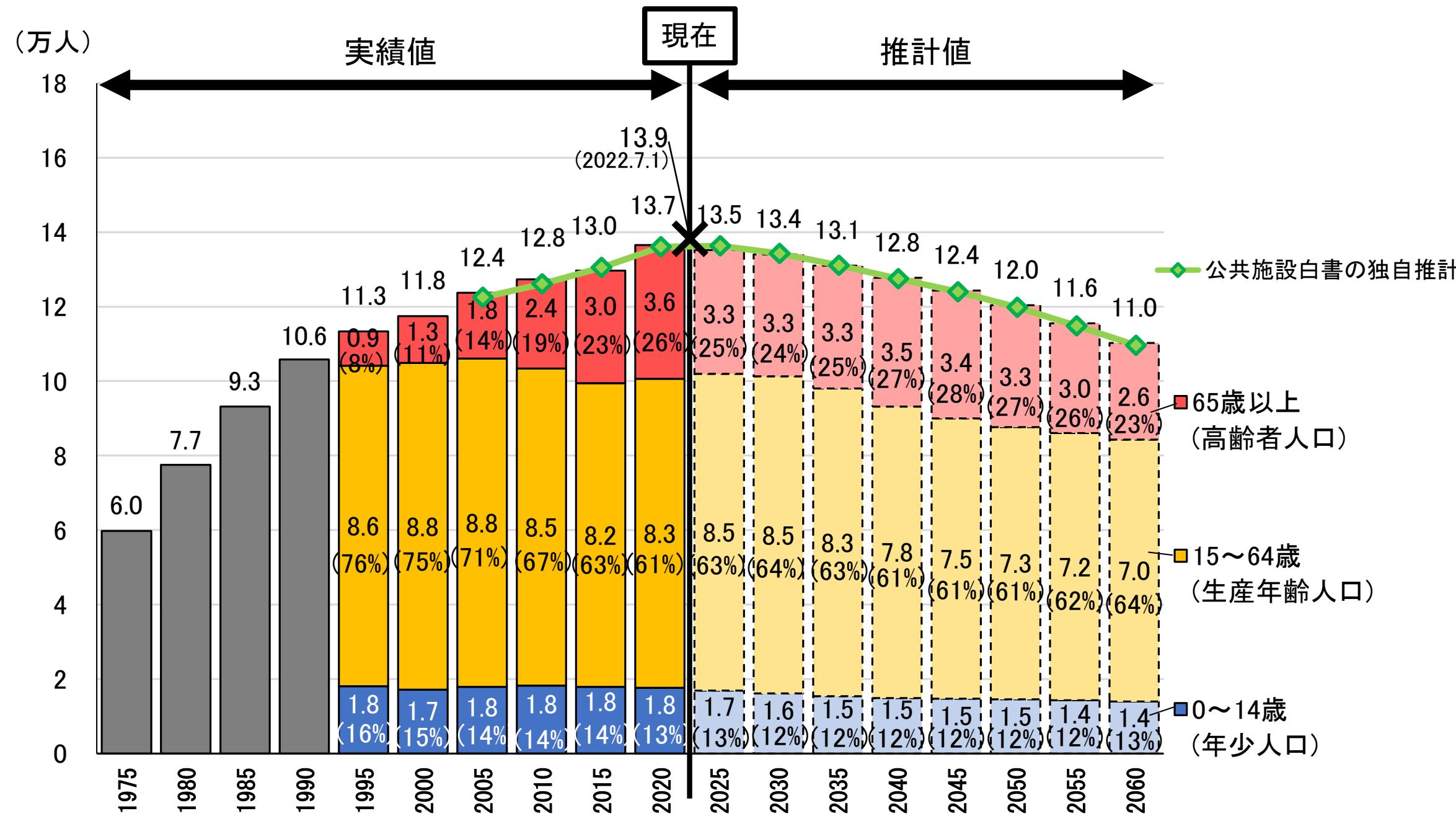
- 2010～2015の変化では駅周辺で人口増加がみられ、駅から離れた地域で人口減少がみられます。
- 2015～2020の変化では海老名駅周辺で急激な人口増加がみられます。



海老名市の人団動態

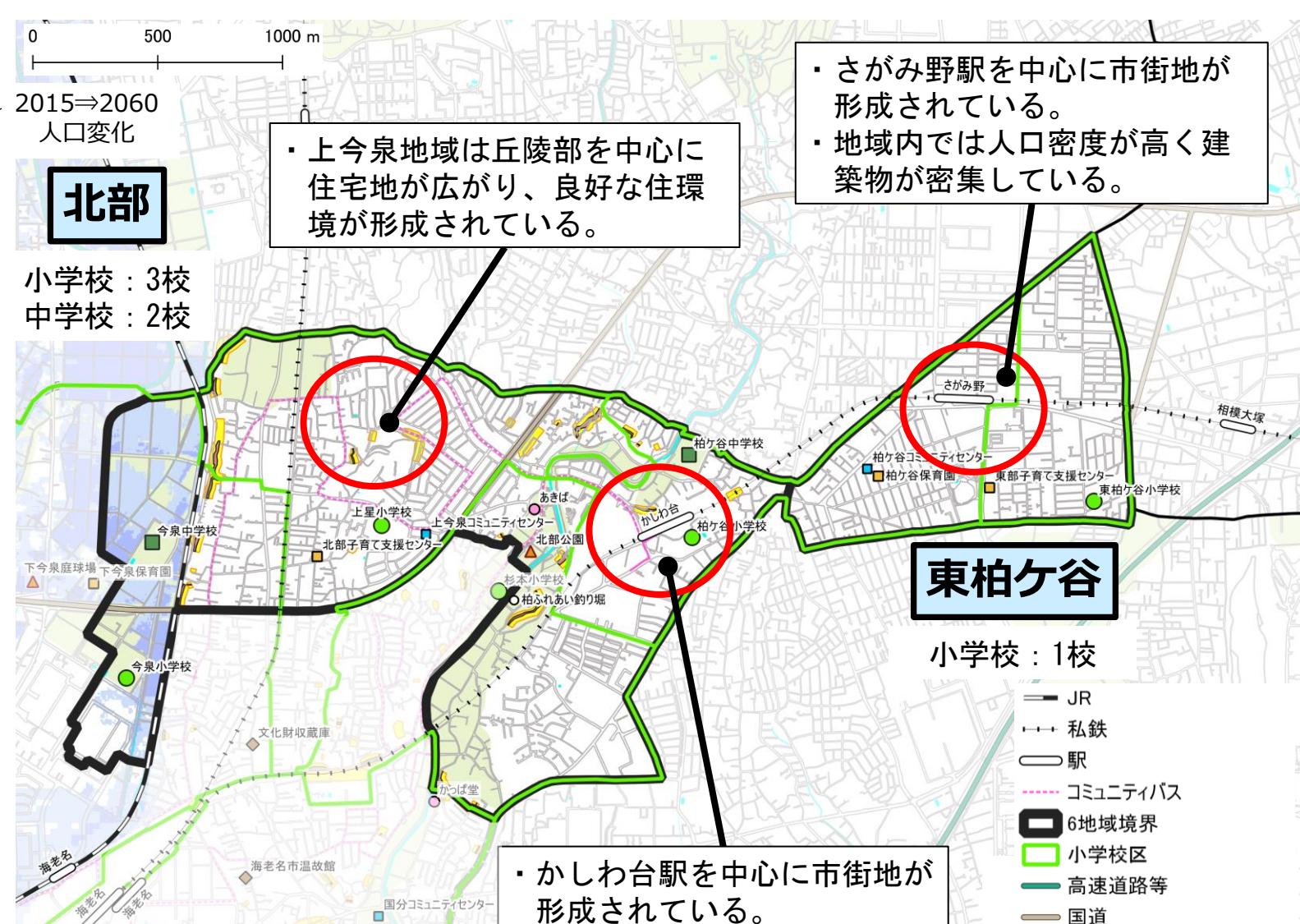
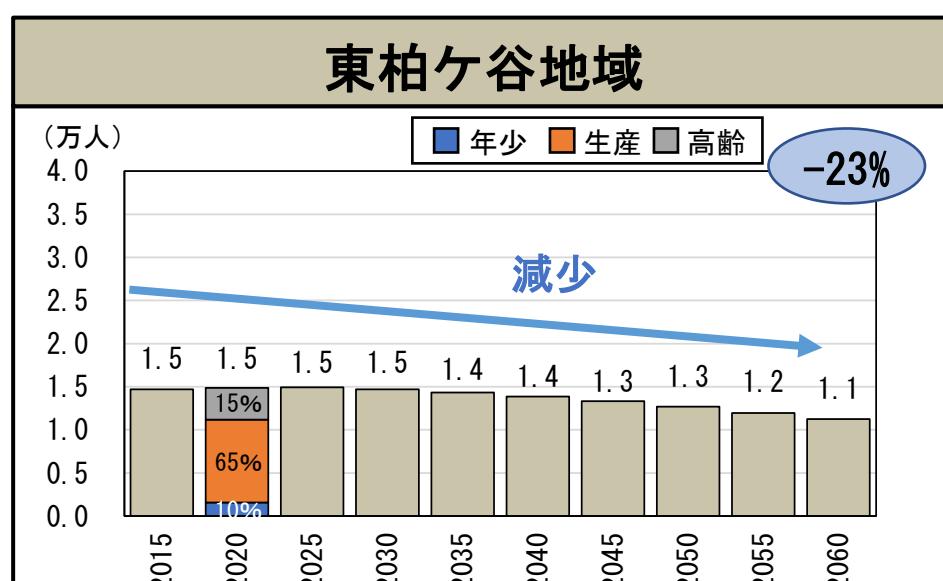
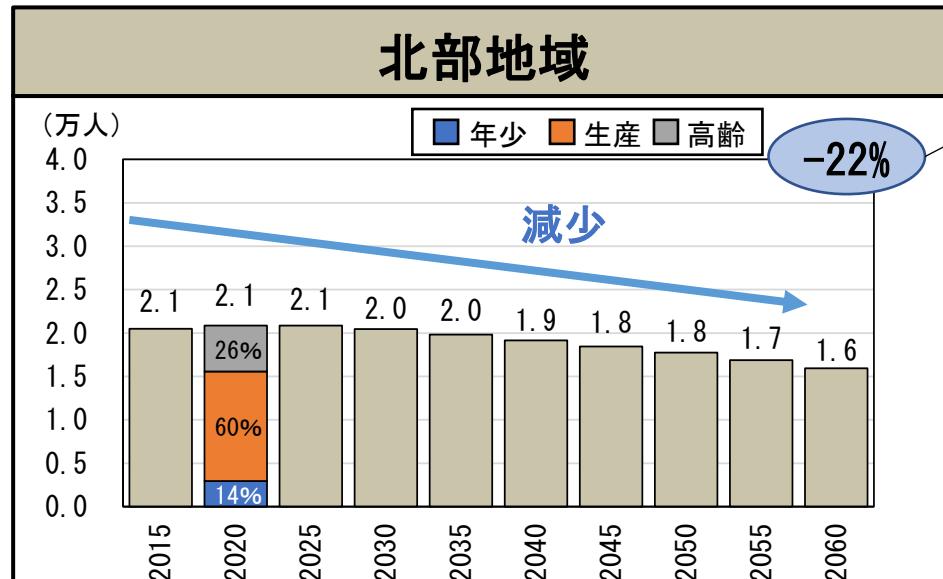
第3回ワークショップ

- ▶ 海老名市の総人口は2022年7月1日現在、13.9万人で、当初の人口推計（2023年ピーク想定13.7万人）を上回る社会増が生じています。
- ▶ 3階層別では、1995年から2020年にかけて高齢者人口が増えて生産年齢人口が減り、今後も引き続き生産年齢人口が徐々に減少する見込みです。



①北部・東柏ヶ谷

- 相鉄線の駅である、さがみ野駅・かしわ台駅を中心に市街地が形成されています。
- 2地域とも人口は緩やかに減少しており、東柏ヶ谷地域では人口密度が $15,492\text{人}/\text{km}^2$ と6地域の中でも人口密度が高い地域となっています。



	北部地域	東柏ヶ谷地域
地域の面積	2.53km ²	0.96km ²
人口密度 (2020年)	8,245人/km ²	15,492人/km ²

(出典) 人口：立地適正化計画2019.3（※2020年の内訳は世帯予測ツールV2（国交省国土技術政策総合研究所）を基に仮算出）

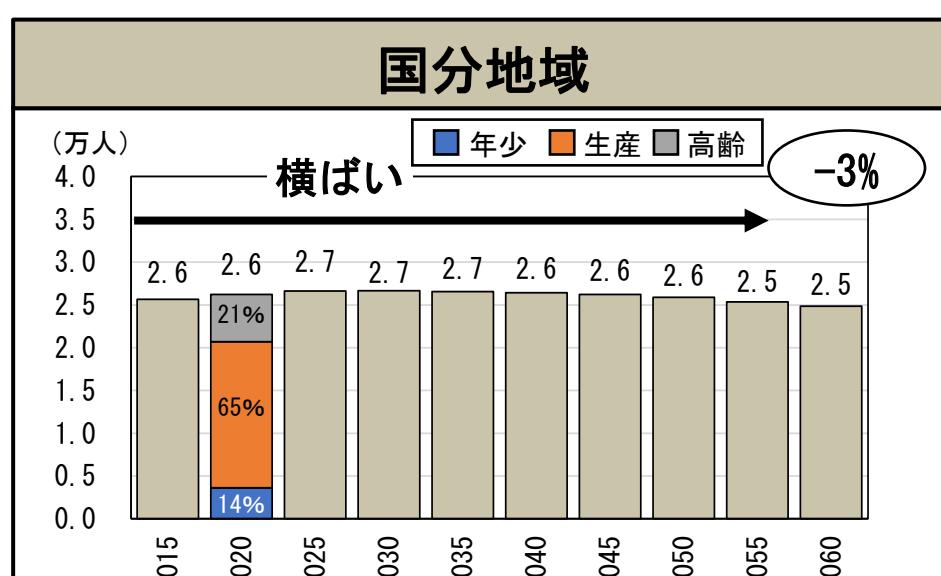
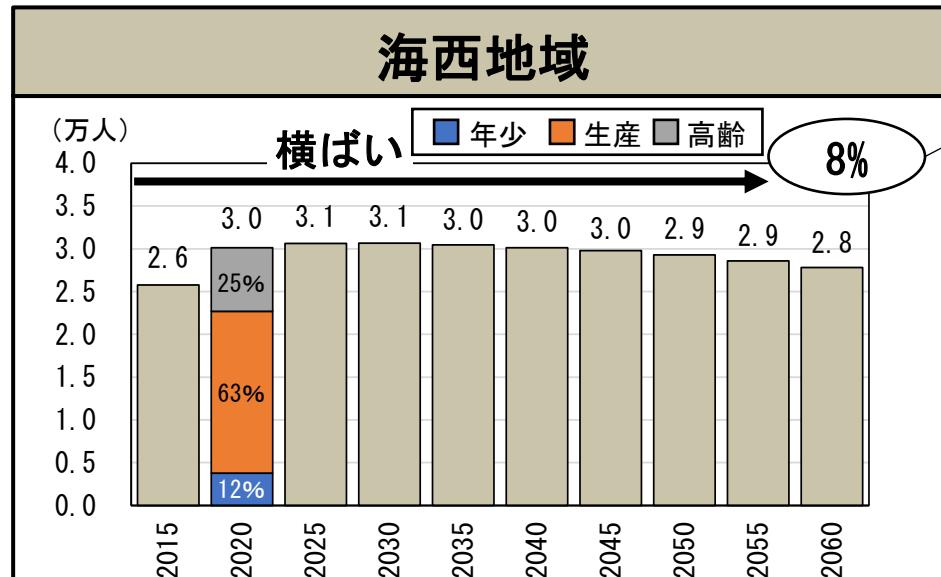
地域面積：HP 地區別面積

洪水浸水想定区域：国土数値情報（洪水浸水想定区域）（国土交通省）、海老名市ハザードマップを基に作成

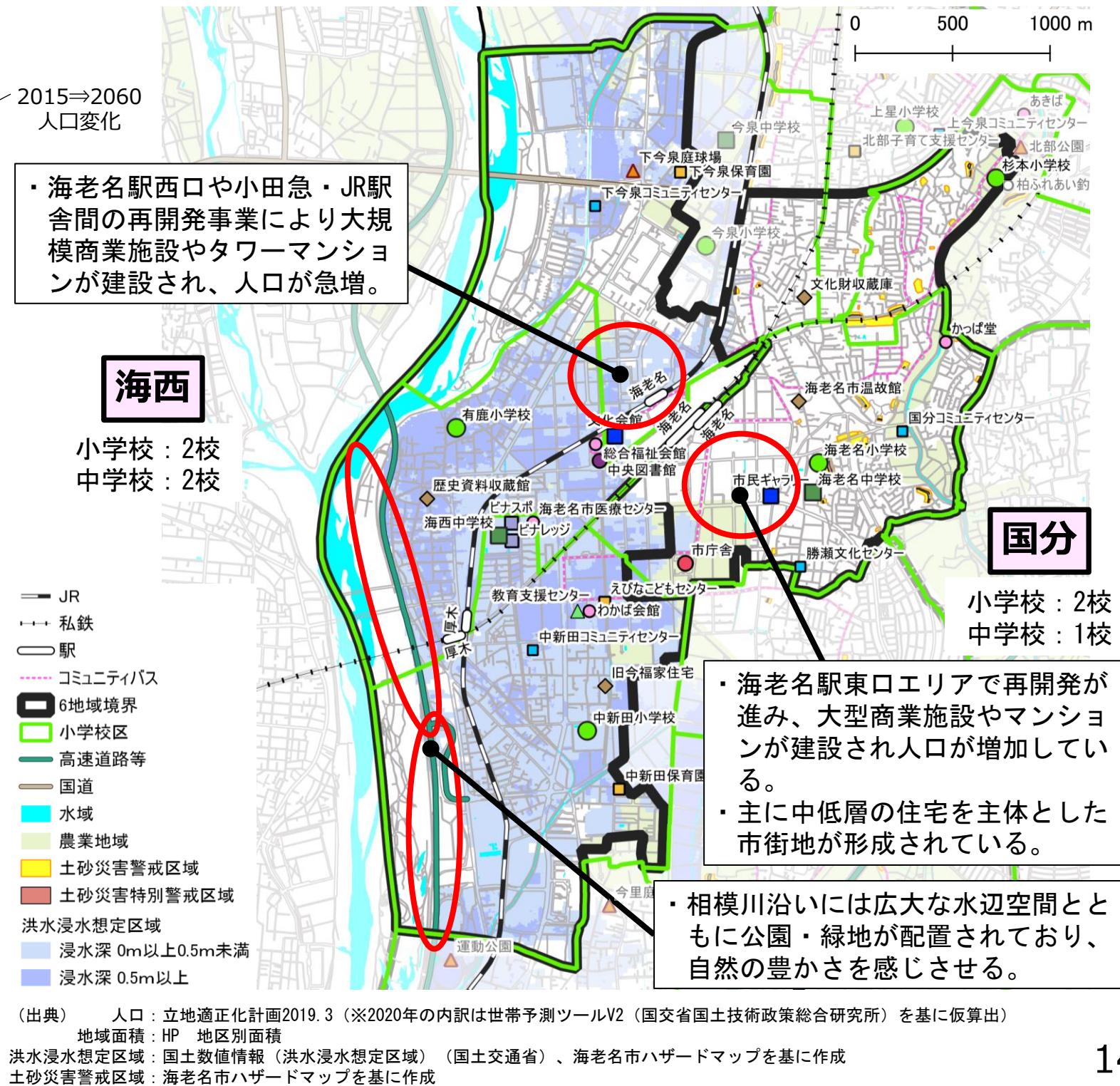
土砂灾害警戒区域：海老名市ハザードマップを基に作成

②海西・国分

- 海老名駅周辺の再開発事業により、商業施設やタワーマンションが建設され、人口増加が見込まれています。
- 人口は横ばいで推移していますが、開発動向により人口の変化が大きく出る可能性があります。



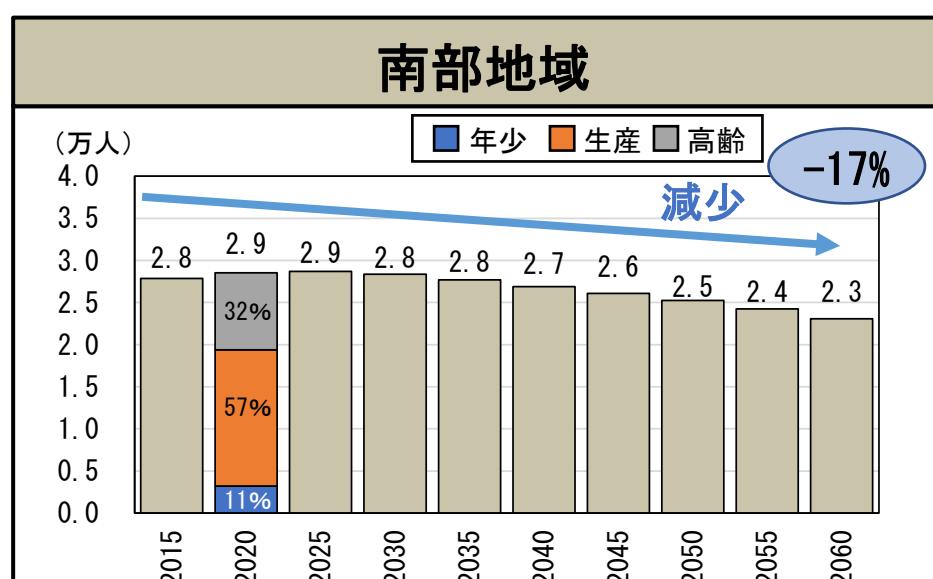
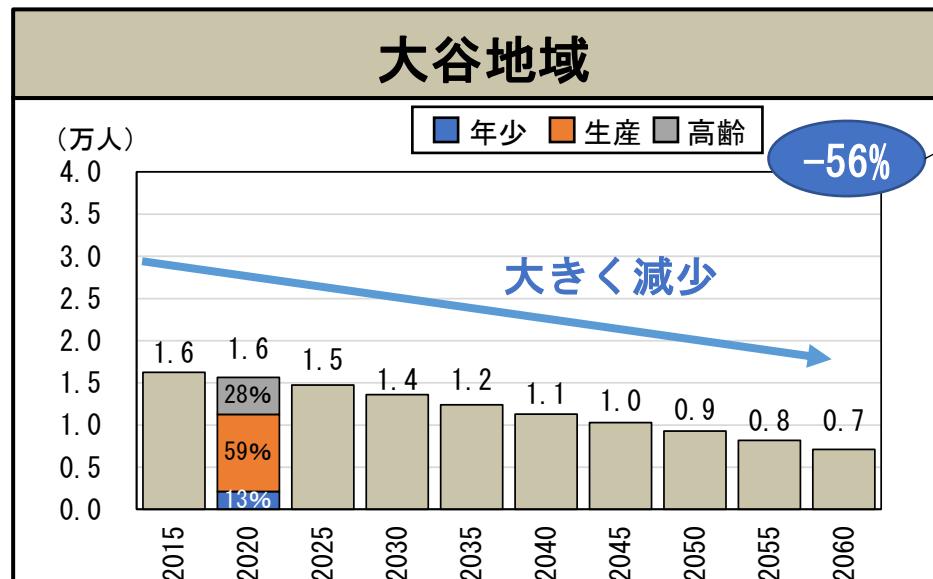
	海西地域	国分地域
地域の面積	6.80km ²	2.66km ²
人口密度 (2020年)	4,428人/km ²	9,862人/km ²



③大谷・南部

第3回ワークショップ

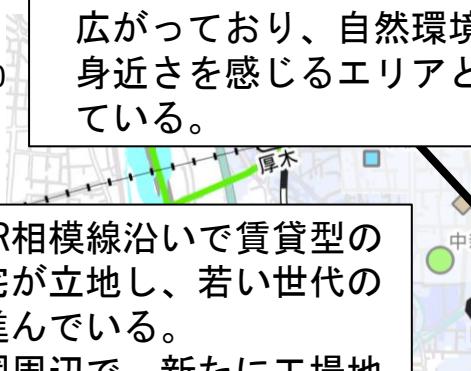
- 南部地域の線路沿いで都市開発が進み住宅や工場が増えている一方、東側では田園と丘陵地があり、今後人口の減少がみられます。
 - 大谷地域では今後人口の減少が大きく見られ、高齢化が進行すると予測されます。



	大谷地域	南部地域
地域の面積	2.81km ²	10.83km ²
人口密度 (2020年)	5,564人/km ²	2,633人/km ²

2015⇒2060
人口變化

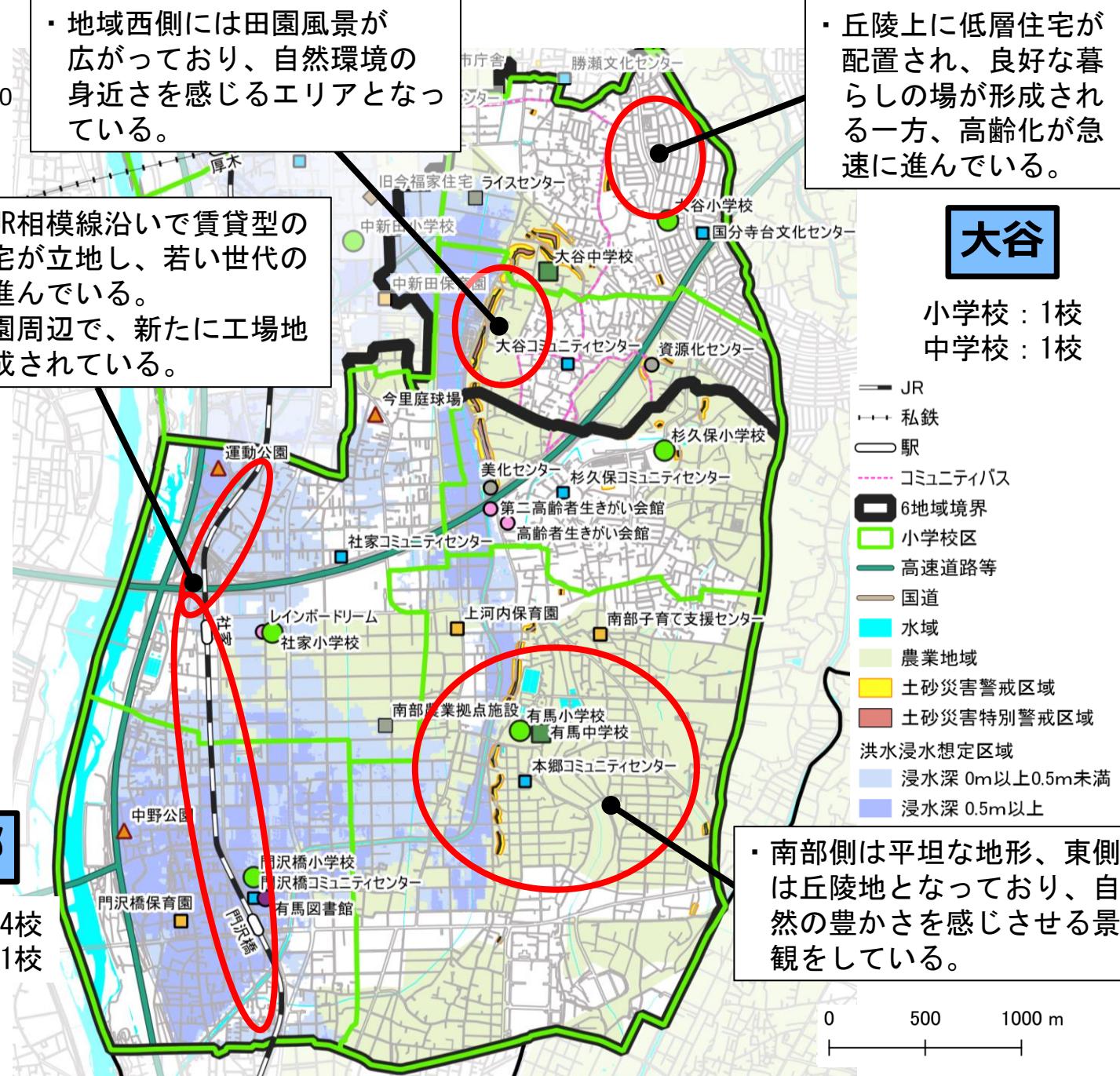
- 2015⇒2060
人口変化

 - ・地域西側には田園風景が広がっており、自然環境の身近さを感じるエリアとなっている。
 - ・西側のJR相模線沿いで賃貸型の集合住宅が立地し、若い世代の入居が進んでいる。
 - ・運動公園周辺で、新たに工場地域が形成されている。

- ・丘陵上に低層住宅が配置され、良好な暮らしの場が形成される一方、高齢化が急速に進んでいる。

大谷

小学校：1校
中学校：1校



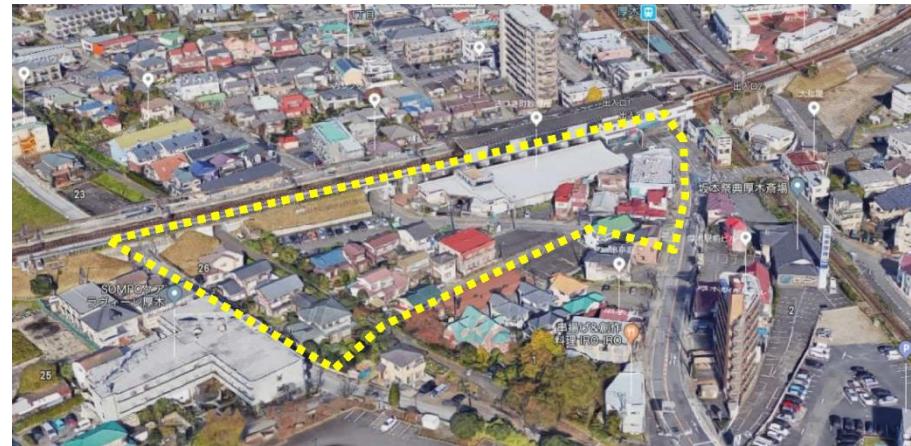
(出典) 人口:立地適正化計画2019.3(※2020年の内訳は世帯予測ツールV2(国交省国土技術政策総合研究所)を基に仮算出)
地域面積:HP 地区別面積

国土数値情報（洪水浸水想定区域）（国土交通省）、海老名市ハザードマップを基に作成
洪水浸水想定区域
土砂災害警戒区域
海老名市ハザードマップを基に作成

新たな開発の動き

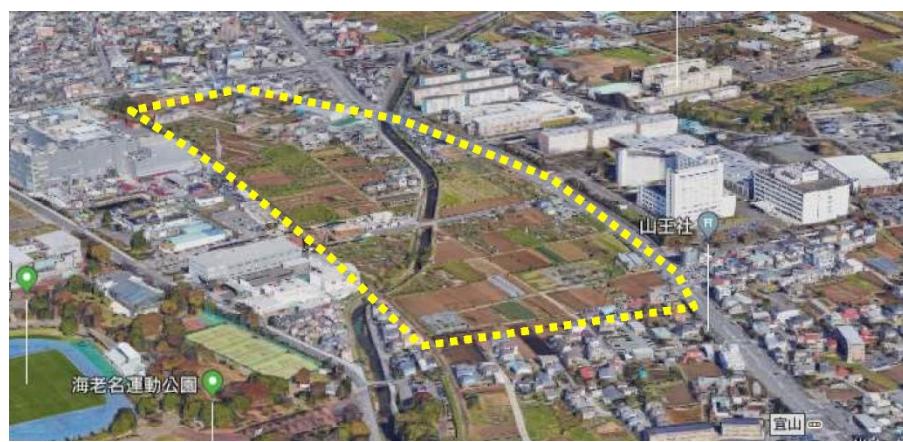
②厚木駅南地区市街地再開発事業

- ・2019年度に県より組合設立認可を受け、現在、共同住宅を主とした施設や駅前広場等の都市施設の整備が進んでいます。



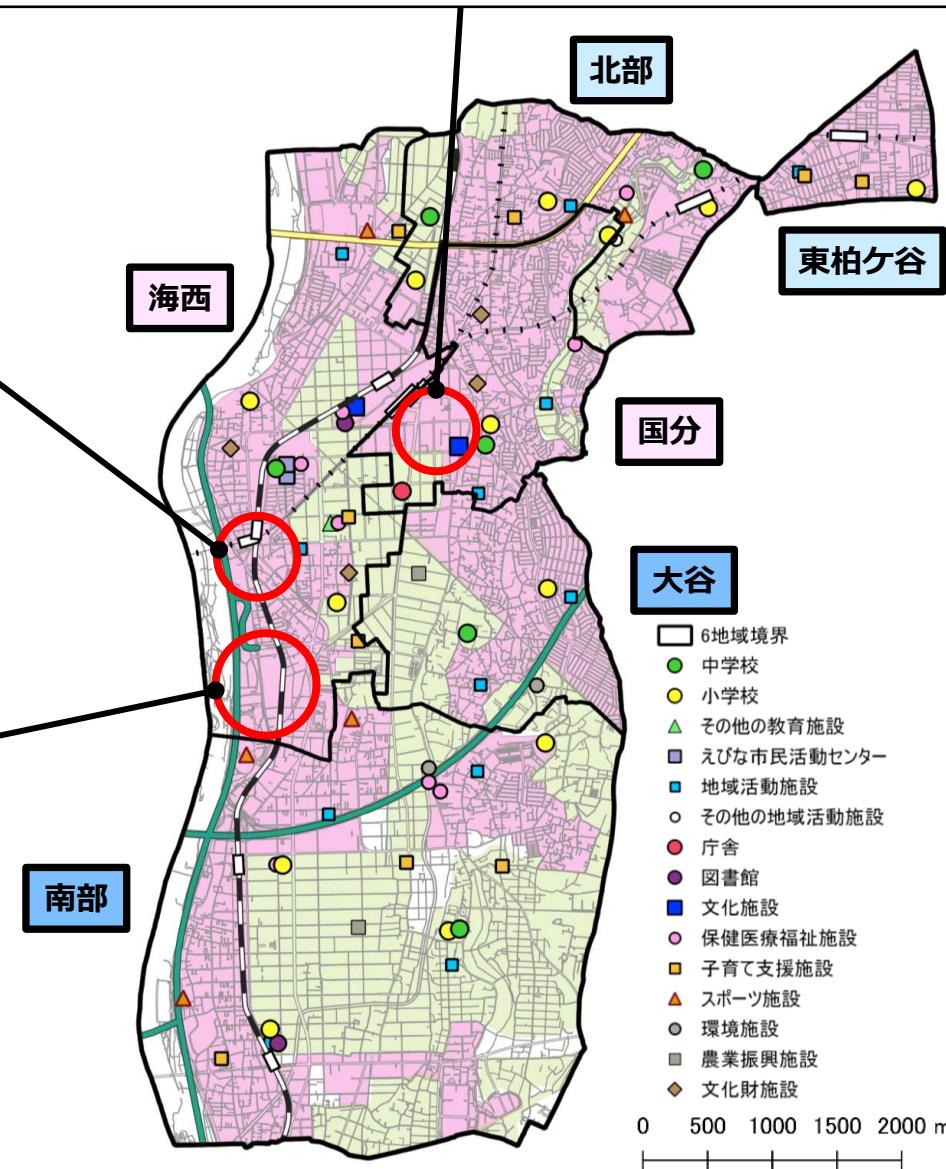
③運動公園周辺地区における工業系用地の創出

- ・土地区画整理事業の施行により新たな工業・流通拠点の整備を進め、2021年に事業が完了しました。現在、大規模流通施設等が整備されています。



①海老名駅周辺の大規模開発

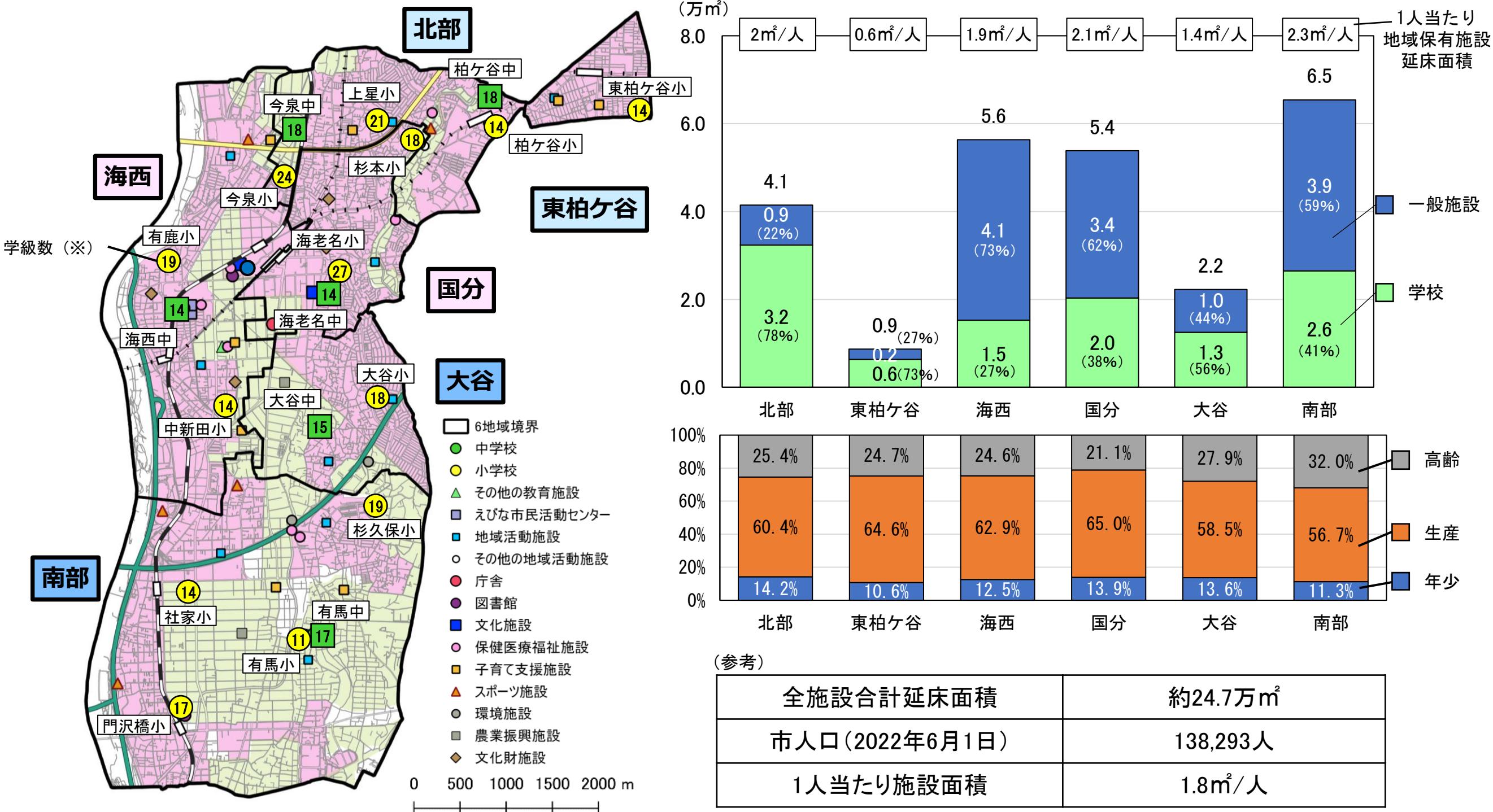
約35,000m²の敷地を、「住宅エリア」と「賑わい創出エリア」の2つに分け、人口構成を踏まえた住宅の供給と商業施設を計画。



地域別施設保有量

第3回ワークショップ

- 海老名市が保有している公共施設の延床面積は約24.7万m²です。
- 施設を多く保有している地域は南部地域の約6.5万m²で、一番少ない地域は東柏ヶ谷地域の約0.9万m²です。

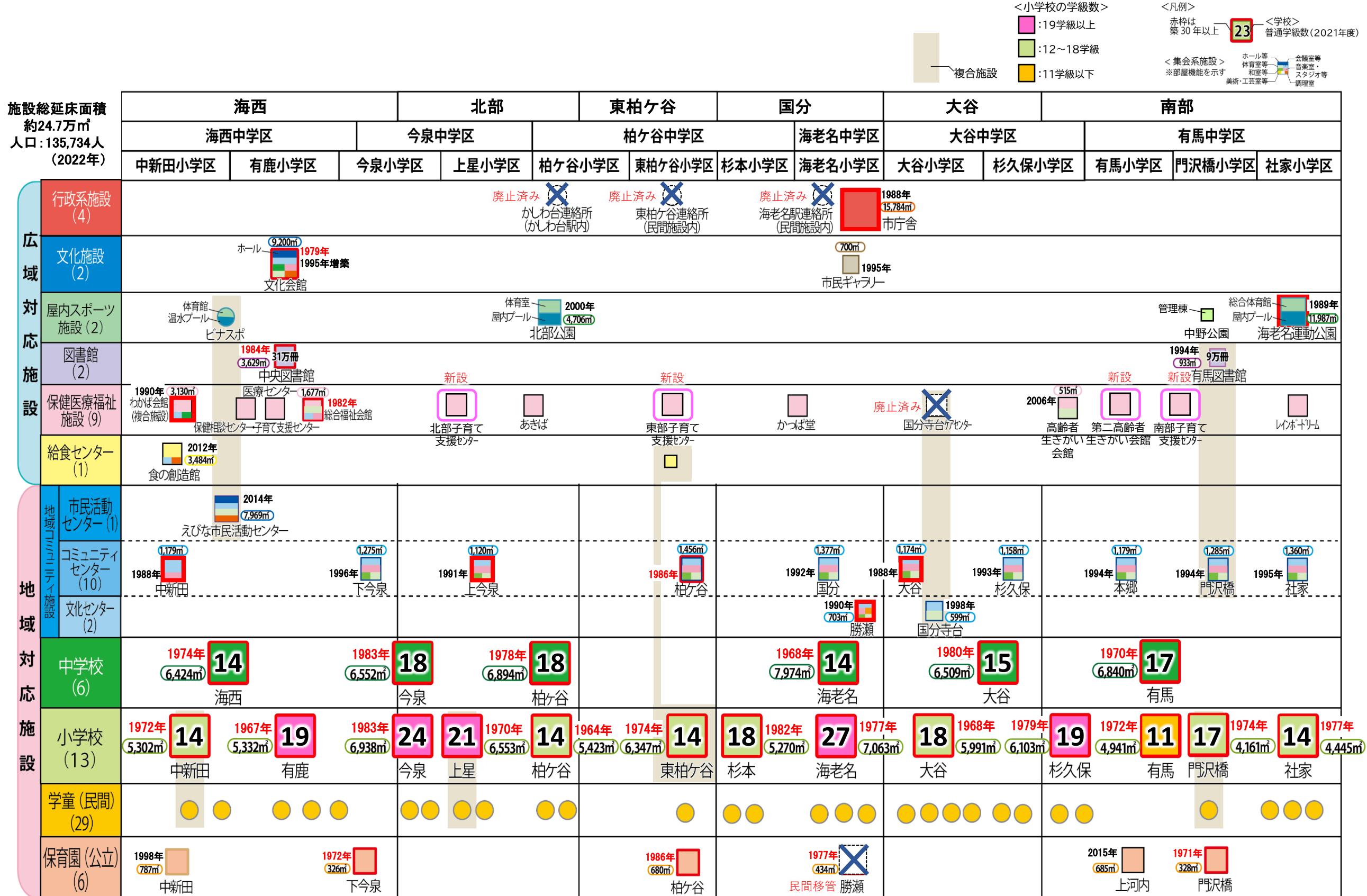


* 学級数 : 2021年度実数 (特別支援学級を含まない)

出典 施設延床面積 : 施設白書調査票、人口構成 : P3~P5と同様

海老名市（2021年度）地域実態マップ

第3回ワークショップ

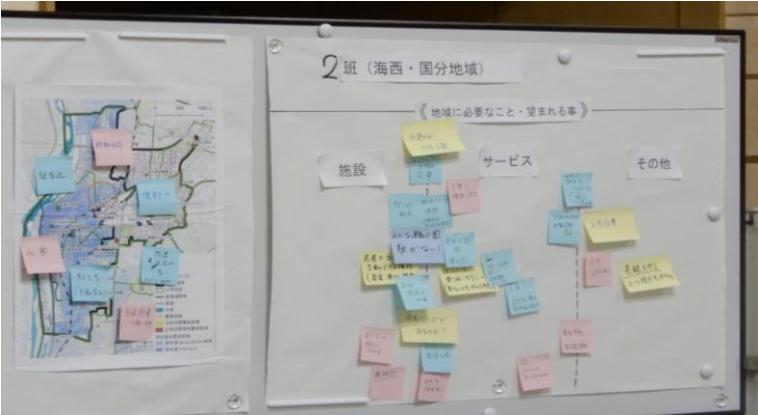


第3回グループ発表の概要

第3回ワークショップ

テーマ：「地域ごとにどうあるべきか考えよう！」

■グループワークの成果



課題 魅力 意見

■主な発表内容

- 自然も公園もあって子育て世代が散歩の際に寄れる。
 - 駅も多く大型の買物施設もあって便利だが、住宅が密集しており、交通面の安全確保や渋滞などが課題。
 - 山の上にあり地盤は強いが、土砂災害対策が必要。
 - 駅周辺には商業施設も多く便利だが、水害の危険も。
 - 自家用車に頼るから渋滞する。コミュニティバスなど公共交通を適正化すれば、渋滞も緩和する。
 - 他市からも人が集まる。魅力と情報の発信が課題。
-
- 圈央道で便利になったが、交通の便が悪くコミュニティバスの本数も少ない。高齢者の移動支援が必要。
 - 緑が豊かで果物や野菜がとれる。海老名SAに道の駅をつくり、地域の食材を使って活性化につなげる。

北部・東柏ヶ谷

秋葉山古墳群
はすばらしい

人口増に対して
施設の数が少
ないのでは？



渋滞している

移動販売車充
実、高齢者の
買物サポート

小学校の教室が空いてきたら、老人福祉施設の検討をお願いしたい

海西・国分

アクセス
が便利

駅周辺で用
事が済む

浸水
心配

大雨時
危険

避難所

若者が自由に活動で
きる施設（音楽・演
劇・撮影）

コミュニティバスの時間の
改定（早い時間、
おそい時間）

商業施設
が多い

広告・情
報不足

自家用車に
頼りすぎ

児童・生徒が自由に
使える場が欲しい

バス路線
増やす
→渋滞減る

